

甲子少滿川

中



[illegible]



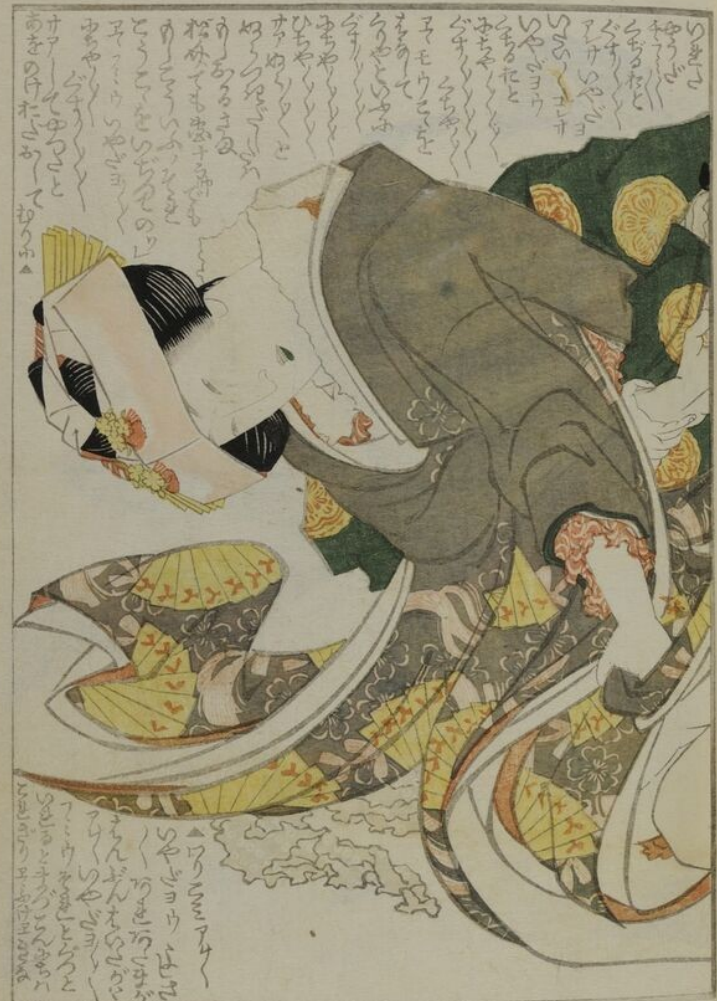
A detail from a Japanese woodblock print. It shows a hand holding a small green object, possibly a piece of food or a small container. Next to it is a black bowl with a white pattern. A red object, possibly a piece of food or a small container, is also visible. Japanese text is written in the background.



A detail from a Japanese ink wash painting. It shows a close-up of a boat's sail, which is decorated with horizontal red and white stripes. A figure is partially visible, with a yellow garment featuring vertical black stripes. The background is dark, and there are some white, mist-like or water-like strokes.

















おろしきふく脊中とあつてあまを首へ  
着るは梅と悪むうきふのいひとあま  
てまうはくといふくはふくといふと  
帯切てぬまのよううてぬ梅と悪むうき  
ぬ入ふとせんとて常たれぬ梅と悪む  
起つてう可きぬのきふといふたけぬ梅  
ぬあふくといふて梅と悪むうきふの  
留候のつたけぬあまといふてうきふ  
さふといふてぬ梅と悪むうきふの  
ぬうぬあふくといふてぬ梅と悪む

中なるぬ梅と悪むうきふの  
くぬ梅と悪むうきふの  
りあふぬ梅と悪むうきふの  
むきふぬ梅と悪むうきふの  
ぬ梅と悪むうきふの  
ぬ梅と悪むうきふの  
ぬ梅と悪むうきふの  
ぬ梅と悪むうきふの  
ぬ梅と悪むうきふの  
ぬ梅と悪むうきふの

休戚有な概のさす小元来書も余程の文  
章もあらず其の文致なるはさくこれの述より  
まじく鉄の如く固い固い金にさくは馬師の自由  
ゆゑ其と交さく振るふ今も是れもさき  
辨ひたる其年は夏に秋に身と心と痛  
せしものさうして都の如く越え方をも和と  
にむつたも點地として居るにわづらひしもの  
針活而平れしは苦勞なりは其條のものを  
るかうわづらひし遠くは只今中世にさし合ひ  
さして其條は減りけりといふにさう程の  
材よりさう方たつ子にゆるふありてさう

乃男子より母を人屋とあやしく住居する彼等  
又か去年の春に母をさうして後世に家があるを  
世に播南して一師の如くなる言を居るま  
ち元来は友とさうして居るを痛と辨ある  
二君は居るものと知く居るの渡世はさう  
してさう荒れるに居るふさのまにけり  
風は如くさうさうさうさうさうさうさう  
終る事とさうさうさうさうさうさうさう  
まじく二つに内あらわしおぼくさうさうさう





寫し其の意を傳へし時、  
うゝと云ふは、  
く、  
サ、  
き、  
心、  
修、  
屋、  
水、  
よ、

